

ローランド 株式会社

世界中から支持される製品作りの舞台裏で、 活躍するAdobe® InDesign® CS4

マニュアル制作の現場を支えるInDesign CS4の相互参照機能



ローランド株式会社 浜松本社

ローランド株式会社では、高性能な電子楽器を提供し続け、世界のミュージシャンから支持を受けている。

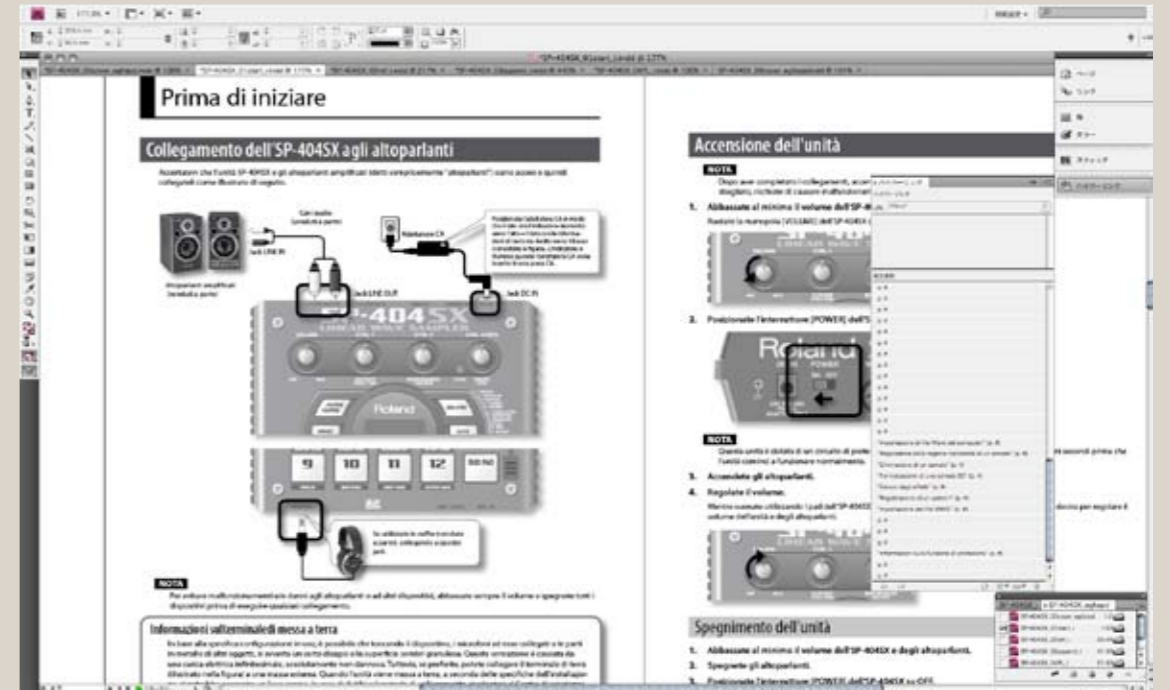
その背景には、“如何にして自社の製品を楽しく使ってもらうか”という、作り手の思いを伝えるためのマニュアル作りに力を注いでいる職人達がいる。自社の製品を世界へ送り出すために日夜努力するマニュアル制作の現場をレポートする。



同社でマニュアル制作を担当するスタッフ
同社では、以前より多国語版も含めて社内でマニュアルを制作している



InDesign CS4によって制作された最新のサンプラー「SP-404SX」のマニュアル。
左が日本語版で右が多国語版だ。多国語版では、7カ国もの言語をサポートしている



多国語版マニュアルを製作中のInDesign画面。入稿のぎりぎりまで追記や修正が入るマニュアル制作において、相互参照の機能は欠かすことができないと語る

古くから音楽産業の盛んな地域として知られている静岡県浜松市では、現在も“音楽”との繋がりが強く、国際的なピアノコンクールやコンサートが開催されるなど「音楽のまち」としての市制を広く内外にアピールしている。その浜松市に本社を置くローランド株式会社は、1970年代にリズムマシンの開発を成功させると、デジタルピアノやシンセサイザーなどの電子楽器を次々に発表し、現在では世界的なシェアを誇る電子楽器メーカーとして知られるようになった。世界中のミュージシャンから愛用される製品を作り出す現場では、マニュアル制作にAdobe InDesign CS4が活躍していた。今回は、浜松市のローランドを訪れ、マニュアル制作におけるInDesignの役割とその利点を伺った。

FrameMakerからInDesignへの移行

楽器と言えどもデジタル器材である限り、操作ガイドなどのマニュアルが必要だ。

ローランドでは、以前よりAdobe FrameMakerのMac OS版を利用してマニュアルを社内で制作してきた。マニュアル制作用のDTPアプリケーションとしてFrameMakerを選び、長く使われ続けてきた理由は、FrameMakerが相互参照機能など大量のページ管理を得意としており、マニュアル製作に向いていたからだ。

しかし、FrameMakerのサポートOSがWindowsへと一本化されたときから、ローランドでも次世代のDTP環境への移行を検討することになった。

「それまでもInDesign CS2を使って、ページの少ないガイドブックやチラシなどを作成してはいたのですが、大量ページの印刷物では、Mac OSのクラシック環境で動作するFrameMakerに頼っていました。しかし、Windows環境へ移行するか、ちょうど迷っていたときに「InDesign CS4では、相互参照機能が追加される」というニュースを聞きつけ、これなら使える！と思いました。」と、同社のマニュアル制作を担当するスタッフは、当時は振り返り語ってくれた。

「SP-404SX」のマニュアル制作に採用

追記や仕様の変更に伴う修正が多いマニュアル制作において、相互参照は欠かすことのできない機能のひとつだ。InDesign CS4がリリースされるやいなや体験版をダウンロードし、相互参照機能の検証を行ってみると、マニュアル制作で利用できる手応えを得ることができたため、本格的にマニュアル制作へと利用することを決めたという。InDesign CS4は、早速、最新のサンプラー『SP-404SX』のマニュアル制作に採用された。

「InDesignでは、Unicodeを標準でサポートしているので、ローカライズをスムーズに行うことができ、日本語版と多国語版のマニュアルを製品発売時からリリースすることができました。また、OpenTypeが標準となったことで、WindowsとMac OS間の互換性が高くなり、翻訳会社とInDesignデータのままやりとりが可能となったことも大きなメリットに繋がりました。」

また、ローランドでは以前からPDFによる入校を導入してきたが、InDesignではPDFを直接書き出すことができるようになり、デザインから製本まで一括したワークフローが実現したことで、生産性の向上と経費の節減に貢献したそうだ。

マニュアルのビジュアル化に応えたInDesign

これまでの製品マニュアルと言えば、文章の羅列や難解な用語が多く、わかりづらいというイメージが強かった。ちょうどその時期、ローランドでもユーザーからの意見を取り入れ、ビジュアルを多用した、わかりやすいマニュアル作りを模索している時期でもあった。そこへIllustratorとの相性の良い、InDesignが導入されることになり、ビジュアルを重視したマニュアル作りの環境が整ったわけだ。

「InDesignのオブジェクトスタイル機能を活用することで、オブジェクトへ透明度を設定したり、ドロップシャドウを加えるなど、自由度の高いデザインが実現しました。お客さん目線でのマニュアル作りが可能となったことで、以前にも増してデザインに気を使うようになりました。」

こうした取り組みが評価され、日本マニュアルコンテストで、同社の「VP-550」の製品マニュアルが優秀賞と、デザインを高く評価され審査委員特別賞を受賞するという荣誉に繋がった。賞を受賞することで、仕事に対する大きな励みとなるとともにマニュアルにおけるビジュアルの必要性を再認識したとマニュアル担当のスタッフは語ってくれた。

会社データ

ローランド株式会社
静岡県浜松市

サンプラー
SP-404SX
<http://www.roland.co.jp/club/sp/>

チャレンジ

Acrobat 9 Pro Extendedを仲介して、CADのデータを取り込み、マニュアル制作に役立てる。

ソリューション

FrameMakerを使ったDTP環境からInDesign CS4を柱とする最新のDTP環境への移行を実現。

ベネフィット

カラーマネジメントと事前データチェックで、色校正を簡略化。

Tool Kit

- Adobe® InDesign® CS4
- Adobe® Illustrator® CS4
- Adobe® Acrobat® 9 Pro Extended

InDesignに標準で相互参照機能が加わったことで、新しい環境への移行を決定しました。

ローランド プロジェクトサポート部マニュアルグループスタッフ



InDesignを利用して制作されたガイドブックや小冊子
InDesignを導入することで、4色でデザインの自由度の高い冊子の制作も手がけるようになったそうだ

ローランドが開発した最新のサンプラー
「SP-404SX」 (<http://www.roland.co.jp/club/sp/>)
同製品のマニュアルはすべてInDesign CS4によって制作された

オブジェクトの概念がデザインの質を高めた

InDesignは、FrameMakerに比べ、文章の書式だけでなく、画像や表などのオブジェクトに「スタイル」を適用できる点が大きく異なると思う。文章や画像をオブジェクトとして扱うため、これまではなかった「スタイル」が適用可能となり、この機能がビジュアル化に大きく貢献しているそうだ。

しかし、デザインにおける自由度が高いということは、作る人のセンスによって仕上がりが変わってしまうことも考えられる。同社では、テンプレートやスタイルの統一化を計ることで、ハウスルールを一元化する方向で対処している。

また、CS4からサポートされたライブプリフライト機能も作業効率を向上させることに役立っているという。

「マニュアル制作では、全件置換をするケースが多いのですが、そのために置換後のリフローもかなり発生します。ライブプリフライト機能では、リフローをするとその場ですぐわかるので、後の校正が楽になりました。」

プリフライトのチェック項目もカスタマイズできるので、ハウスルールに従ったチェックを行えるのも便利だという。ダイナミック・スペルチェックがサポートされたことで、英文編集時のスペルミスをすぐに見つけることができるのも魅力だそうだ。

ワンソースマルチユースの徹底が理想

InDesign環境へ移行することで、デザインの自由度が高まっただけでなく、Illustratorを初めとするCreative Suite製品との連携がより綿密になったことで、データの互換性が高まり、様々な形で応用することができるようになったという。たとえば、ローランドでは、製品開発の設計段階で使われたCADデータをマニュアルへ応用しているそうだ。

「製品開発の段階で制作されたCADのデータを一度、Acrobat 9 Pro Extendedを使って3D化し、好きな角度に設定します。それをInDesignへ取り込むことで、CADを使わずに3Dモデルの角度決めを自由にできるようになります。」

これまで、CADの二次元データをIllustratorなどで加工し、マニュアルへ転用する例はあったが、Acrobat 9 Pro Extendedを導入したことで、3DのCADデータをマニュアルで扱えるようになったそうだ。

もちろん、マニュアル制作の過程で発生したデジタルソースはWebへも転用されている。同社のホームページからはいつでも製品マニュアルをダウンロードできるほか、マニュアルで作成した図をWebやカタログで利用したり、カタログ用の画像をマニュアルに利用することもある。最終的には、すべてのデータを余すことなく利用することが理想だと語ってくれた。

アドビシステムズ株式会社 〒141-0032 東京都品川区大崎1-11-2ゲートシティ大崎 イーストタワー・www.adobe.com/jp/
Adobe Systems Incorporated 345 Park Avenue, San Jose, CA 95110-2704 USA・www.adobe.com
アドビカスタマーインフォメーションセンター Tel.03-5350-0407 受付時間/平日9:30~17:30(土曜・日曜・祝日・弊社指定休日を除く)

Adobe、Adobeロゴ、Adobe Illustrator、Adobe Creative Suite、Adobe InDesign、Adobe Acrobatは、Adobe Systems Incorporated(アドビシステムズ社)の米国外ならびに他の国における商標または登録商標です。その他すべての商標は、それぞれの権利帰属者の所有物です。

©2009 Adobe Systems Incorporated.All right reserved.

